

海洋公害や次の世代への資源温存の立場からも、充分考  
えるべきである。  
さもなくてもスピード一辺倒、絶えず何かに追いか  
けられているようで、心せわしい。せめてつつましく、安  
らかに、後ろをふり向く余裕のある暮りで長くもない余  
生を過ごさせてもらいたいものである。

## 北筑波と峰寺ハイキング報告

奥井登美子

八月十二日。参加人員 六十一名

峰寺山西光院入口より徒歩二・七キロ。西光院檀堂で  
八郷町社会教育課長、本図享氏の説明を聞く。子供たち  
は、鐘をつかせてもらう。次に上曾キノコ山入口でバス  
を降り、上曾峠をへて、湯袋峠へおる。途中上曾峠で  
トンボの大群を見、沢で中根勇氏心づくしのスイカをい  
ただいたり、ガマガエルのオシッコを見物したり、当日  
の全行程九、四キロ。暑くて、慣れない人にはちよつと  
強行軍でしたが、皆とても元気でがんばりました。

収入 大人三四人：二万三千八〇〇円

子供二十七人：一万八〇〇円

支出 計 三万四千六百円  
バス代 三万円（二千元まけてくれまし  
た。）

チップ 千円  
さい銭 千円

計 三万二千元

残二千六百円は自然を守る会の会計に入れさせていた  
だきました。

## 参加者の一人として

柳生四郎

過日土浦の「自然を守る会」の遠足に加わって。

筑波林道を歩いた。街からちよつとばかり入ったところ  
に、こんな仙境にも等しい自然があることを知ったこと  
は、大きな喜びであり、大いに気をよくしたことであつ  
た。蜻蛉が人を怖れず手先にとまったり鶯と蟬が声を合  
わして鳴いていた。草いきれの中を、ごろごろの  
石ころ道を長いこと歩いてへとへとになった子供達が沢  
に出て、冷たい水に胸をひたし、沢がにとりに興ずるさ  
まは涙なしには見られない喜びであつた。こんなところ